

科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 6 月 9 日現在

機関番号：32601
研究種目：基盤研究(C) (一般)
研究期間：2018～2022
課題番号：18K01040
研究課題名(和文) フランコ独裁体制初期における「国家カトリック主義」創出と受容をめぐる実証的研究

研究課題名(英文) An Empirical Study on the Creation and Acceptance of "National Catholicism" during the Early Franco's Dictatorship

研究代表者
渡邊 千秋 (Watanabe, Chiaki)

青山学院大学・国際政治経済学部・教授

研究者番号：00292459
交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：本研究は、スペイン・フランコ独裁体制、特にその初期において、内戦によって混乱したスペインの政治的安定を求めて活動したカトリック平信徒のあり方を再考する試みであった。既に研究が進んでいる閣僚信徒の政治的行動に関してではなく、一般の平信徒に注目して、プロソポグラフィの方法を援用し、独裁支持者の政治参画の特色を下から再構築しようとした。ただし、コロナウィルス蔓延の影響を受け、初期に予定したスペインにおける文書館等での一次史料収集は停滞したといわざるをえない。一方、日本での文献調査によって、スペインの国家カトリック主義がもつワールドワイドで広範な地理的広がりを跡づけることとなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究は、政治家等の公人ではないカトリック平信徒に焦点をあて、下からの「国家カトリック主義」形成を研究したことに学術的意義がある。プロソポグラフィの方法を援用し、特に地方政治に関与する世代となっていた青年カトリックの集合的バイオグラフィの構築を行うことで、戦後混乱期のスペイン社会における人々の生き方・政治的選択の決定過程に宗教がいかに影響を及ぼしていたかを明らかにした。また、スペインの事例研究を通じて、特定の時代における宗教心性の成立を分析する方法および将来的な比較分析の可能性を提示したこと、社会的意義があると考えられる。

研究成果の概要(英文)：This research attempted to reconsider how Spanish Catholic laypeople sought political stability in the Franco dictatorship, especially in its early days, which had experienced a civil war and was disrupted. The research focused not on the political behavior of advanced ministers but on laypeople. It employed prosopographic methods to attempt to reconstruct the characteristics of the political participation of Franco's supporters from the bottom up. Affected by the spread of the coronavirus, the collection of primary historical materials at archives and other places in Spain has stagnated. On the other hand, an unexpected result of this research was that I traced the worldwide spread of Spanish "National Catholicism" through some publications surveys in Japan.

研究分野：スペイン現代史、地域研究

キーワード：カトリック教会 アクションカトリカ プロソポグラフィ フランコ独裁 教皇庁 スペイン 内戦 グローバル

1. 研究開始当初の背景

本研究開始当初には、スペイン・フランコ独裁期下で「国家カトリック主義」と名づけられた社会心性を作り出したと考えられる政策や、公人としての政治家に関する研究には一定の成果があがっていた(A. Alvarez Bolado, 1976; 1995. J. Tusell, 1984. A. Botti, 1992.)。しかしながら、これら先行研究は、フランコ独裁体制のカトリック的な基盤を自明のものとしており、「国家カトリック主義」と呼ばれる背景には市井の人々の心性が存在していること、またそれがどのように培われてきたのかという観点からの研究は、フランコ独裁体制成立初期に関しては特にであるが、スペイン人研究者のあいだでも進められていなかった。よって、独裁の精神的な支持基盤となったこの社会心性を、はからずもそれを生み出すことになった市井の人々の生きざまを研究することに現代的な意義があると考え、本課題研究に着手した。

2. 研究の目的

本研究は、スペイン内戦から第二次大戦終結までの、いわゆるフランコ独裁初期のスペインを研究対象とした。歴史学からは特にプロソポグラフィ分析、歴史会話分析の手法にくわえて、宗教社会学の方法論を応用する分野横断的・学際的な実証研究により(S.Gunn & L.Faire, 2012)、先行研究では特に手薄だったといえる「普通の」信徒のマイクロストリアを構築・検証し、彼らの集合的バイオグラフィを分析することをつうじて、政治家ではない一般の信徒にみられた体制への依存状況を実証することを目的とした。そうして、先行研究で「国家カトリック主義」と命名された、スペイン的な社会心性の実相を再考しようと考えたのであった。また、予備的調査によって可能性が示唆されていた、マドリード地方と、フランコ独裁体制により弾圧の対象となったバルセロナを中心としたカタルーニャ地方とのあいだの差異を考察したいと考えた。そして比較研究を行い、「国家カトリック主義」にあったと思われるバリエーション、つまり地域ごとに様相の異なる特徴的な動向があったことを提示し、フランコ独裁を支えた普通の人々の実相を明らかにすることを目指したのである。

3. 研究の方法

フランコ独裁体制初期における直接的・間接的な政治活動への寄与という点から、本研究では教区教会の信徒団体として広く浸透していたアクシオン・カトリカ青年部のメンバーである男性信徒を対象をしばって、彼らの個人バイオグラフィを把握することに努めた。彼らの社会層や政治的関与などを調査し、プロソポグラフィの方法を援用し、彼らの集合的なバイオグラフィを分析することで、団体の特徴を明確にするとともに、人々の草の根ネットワークがどう形成され、どう機能していたかを考察する方法をとった。またそのうえで、マイクロストリアから全体像の構築を目指し、彼らの戦中・戦後の動向、イデオロギー的な変遷などの情報を収集・分析することに努めた。

4. 研究成果

以下、本研究課題について公開された成果の主要なものについて概略を述べる。

(1)国際ワークショップ“Catolicismo Transnacional con Vision Hispanica” [国家を越えるカトリシズム：スペイン史の視野から]開催

Covid-19の影響が世界的に拡大する以前の2020年1月に、スペインからJ.R.Rodriguez Lago氏(ビーゴ大学)・N. Nunez Bargueno氏(ソルボンヌ大学[当時])の2名の気鋭の研究者を招聘して、上記の国際ワークショップを開催することができた。また、日本側からは、ヨーロッパ諸国における近現代カトリック教会の歴史を研究する研究者を交えて、方法論からカトリック教会の現状に至るまで活発な議論を交わすことができたのは、大きな成果であったと考える。このような国際的研究者ネットワークの形成は、本研究課題を遂行するにあたっての励みとなった。

(2)論文「フランコ独裁体制初期におけるアクシオン・カトリカ青年部 マドリード、コルプス・クリスティ教区の機関誌『セントロ』からみる組織再生の試み」

組織の復興過程を分析することで、内戦による混乱のなかで人々が生き抜く支えとして、宗教が果たした役割を論じた。アクシオン・カトリカ青年部の会員たちが、破壊された教会堂を再建し自分たちの居場所を確保しながら、カトリックを基軸に新たな会員をリクルートしつつ、組織を再建する模様を、マドリードにあったコルプス・クリスティ教区での活動例をとりあげて考察

した。

(3)論文「フランコ独裁体制初期における『聾啞者アクション・カトリカ』創設について」

本論文では、戦後復興のなかでもすれば保留されそうになる障がい者のための教育組織の復興に、アクション・カトリカ所属の男性平信徒が、全国的な組織ネットワークを駆使して地方政治に深く関与していた状況について考察した。

(4)論文「『候補会員』という制度からみるアクション・カトリカ男子青年部(1923-1943)」

正会員として認められる以前のいわゆる「見習い」期間の若き青少年に対して、アクション・カトリカ青年部がどのように宗教的情操を涵養し、人格形成のためのさまざまな活動を促すことで彼らのカトリック的メンタリティ形成に影響を与えたか、について論じた。

(5)論文「聖職者は戦場にむかうカトリック青年平信徒に何を望んだのか：パンフレット『君の背囊のなかに...』(1938年出版)をめぐって一考察」

バスク地方のアクション・カトリカの聖職者顧問によって執筆され、戦闘に参加したカトリック青年層が読んだとされるパンフレット『君の背囊のなかに』で展開される言説を分析し、すでに戦中の時期にみられていた「国家カトリック主義」を下支えするイデオロギーの萌芽を見いだしたものである。

(6)共著 "Capitulo 12. Los jesuitas españoles misioneros en el Imperio japonés (1916-1945)", J.R.Rodríguez Lago, N.Núñez Bargueno (eds): *Más allá de los nacionalcatolicismos*, Madrid, 2021. [帝国日本におけるスペイン人宣教師としてのイエズス会士(1916-1945)]

スペインで発行された本書の12章を担当し、日本現代史とスペイン現代史をむすぶキーパーソンとなる宗教者、スペイン人イエズス会士の動向に関して、第二次世界大戦終結以前の時期について考察した。プロソポグラフィの方法を援用し、日本への宣教師となった人々の集合的バイオグラフィの構築を行った。この作業により、彼らのなかには、日本とスペインのあいだを往還したものが多く、フランコ独裁初期にスペインへ戻って、まさに国家カトリック主義の構築に関与した人物もみられることが実証された。

(7)論文「前線にいる闘士をいかに支えるか：スペイン内戦における、アクション・カトリカ男子青年部部長マヌエル・アパリシ・ナバーロの活動(1936-1939年)」

第二共和政期の任命以来、内戦の機関をまたいで1941年までアクション・カトリカ青年部部長をつとめたアパリシ・ナバーロの行動・言説を分析したものである。また、当時の執行部メンバーの集合的バイオグラフィ分析を試みた点は、本研究課題の遂行という点からみて、特筆すべきものと考えられる。

上記の成果をふまえ、フランコ独裁体制下でスペインの政治の中核となったマドリードでのカトリック信徒のミクロな動向を抽出・分析し、下からの国家カトリック主義の創出について考察し、提示することができたと考えられる。

他方で、Covid-19の影響を受け、スペインの文書館へのアクセスが閉ざされてしまったため、特に研究期間後半で実施予定であったカタルーニャ地方での一次史料の入手が困難になる、という問題が生じた。そのため、特にマドリードのケーススタディに集中し、他方で、カタルーニャのケースについては、日本から入手可能な文献資料を再吟味することとなった。

こうして、当初予定していた、カタルーニャでのミクロな活動状況については、計画した個人バイオグラフィのデータを抽出し終えることができなかった。結果として、現時点ではカタルーニャのアクション・カトリカ青年部に関する全体的な集合的バイオグラフィ分析実施には至っていない。現状では当初予定していた2地域間の比較はできておらず、この点、今後の課題となる。他方で、当初計画とは異なる資料へのアプローチにより、国家カトリック主義のもとで宗教的涵養を受けたカタルーニャ出身の聖職者が1950年代以降、日本をふくむアジアへ移動していることなど、スペインという国家を超える宗教の影響力がみられることも判明している。このような新たな知見を加えつつ、課題に関して引き続き成果を発表する所存である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計7件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 7件）

1. 著者名 渡邊千秋	4. 巻 110
2. 論文標題 前線にいる闘士をいかに支えるか：スペイン内戦における、アクション・カトリカ男子青年部部长マヌエル・アパリシ・ナバーロの活動（1936-1939年）	5. 発行年 2023年
3. 雑誌名 青山国際政経論集	6. 最初と最後の頁 39-61
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34321/22872	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 渡邊千秋	4. 巻 109
2. 論文標題 聖職者は戦場にむかうカトリック青年平信徒に何を望んだのか パンフレット『君の背囊のなかに...』（1938年出版）をめぐる一考察	5. 発行年 2022年
3. 雑誌名 青山国際政経論集	6. 最初と最後の頁 55-78
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34321/22582	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 渡邊千秋	4. 巻 107
2. 論文標題 「候補会員」という制度からみるアクション・カトリカ男子青年部(1923-1943)	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 青山国際政経論集	6. 最初と最後の頁 1-20
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34321/22066	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 渡邊千秋	4. 巻 105
2. 論文標題 「フランコ独裁体制初期における『聾啞者アクション・カトリカ』創設について」	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 『青山国際政経論集』	6. 最初と最後の頁 99-120
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.34321/21626	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 渡邊千秋	4. 巻 102
2. 論文標題 「フランコ独裁体制初期におけるアクション・カトリカ青年部 マドリード、コルプス・クリスティ教区の機関誌『セントロ』からみる組織再生の試み」	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 青山国際政経論集	6. 最初と最後の頁 25-45
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34321/20893	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊千秋	4. 巻 100
2. 論文標題 カタルーニャ自治政府の宣伝活動にみるプロテスタント教会像について(1937年)	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 青山国際政経論集	6. 最初と最後の頁 147-162
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34321/20439	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊千秋	4. 巻 101
2. 論文標題 日本占領下の「南洋群島」と日本カトリック教会	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 青山国際政経論集	6. 最初と最後の頁 159-174
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.34321/20669	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件(うち招待講演 1件/うち国際学会 3件)

1. 発表者名 Chiaki WATANABE
2. 発表標題 "Missions, Missionaries and Japanese Society after World War II: the case of Jesuits"
3. 学会等名 Annual Conference 2021, European Academy of Religion, Munster, Germany, online. (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Chiaki WATANABE
2. 発表標題 "Los jesuitas espanoles en el Japon contemporaneo"
3. 学会等名 International Congress. Without Borders. Religions and Transnational Networks in the Contemporary World. Vigo, Spain, online. (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2021年

1. 発表者名 Chiaki WATANABE
2. 発表標題 "Impronta del catolicismo espanol en las misiones de Japon: Diego Pacheco Lopez de Morla SJ (1922-2008)"
3. 学会等名 I Congreso Internacional: Derechas, Historia y Memoria. Teoria y praxis de las dictaduras en el poder. Madrid, Spain, online. (国際学会)
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 Jose Ramon Rodriguez Lago y Natalia Nunez Bargueno (eds.) / Chiaki WATANABE	4. 発行年 2021年
2. 出版社 Ediciones Silex (Madrid)	5. 総ページ数 634
3. 書名 Mas alla de los nacionalcatolicismos. "Capitulo 12. Los jesuitas espanoles misioneros en el Imperio japones (1916-1945) "	

1. 著者名 Julio de la CUEVA (et al)(eds.)	4. 発行年 2018年
2. 出版社 Servicio de Publicaciones de la Universidad de Alcala	5. 総ページ数 708
3. 書名 De la Historia Eclesiastica a la Historia Religiosa. Estudios en homenaje al profesor Feliciano Montero Garcia. "Mi experiencia con el maestro Feliciano Montero Garcia (1992-1995)", 27-40p.	

〔産業財産権〕

〔その他〕

Modernidad y religion en la Espana del siglo XX
https://sede.micinn.gob.es/stfls/eSede/Ficheros/2019/Resolucion_de_concesion_PGC2018.pdf

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会	開催年
ワークショップ「国家を越えるカトリシズム：スペイン史の視野から」	2020年～2020年

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関		
スペイン	Universidad de Castilla-la Mancha	Universidad de Vigo	